

審査論文要旨 (日本文)

論文提出者氏名： 中川 ゆみ

審査論文

題名： Evaluation of the Human Papillomavirus mRNA test for the detection of cervical lesions in Japan

(日本における頸部病変の検出のためのヒトパピローマウイルス mRNA の評価)

著者： Yumi Nakayama, Masatoshi Yamada, Aatsuchi Kurata, Hisami Kiseki, Keiichi Isaka, Masahiko Kuroda

掲載誌： European Journal of Gynecological Oncology (in press, 2014)

目的

子宮頸管の異常をスクリーニングするために、パパニコロー (Pap) 試験と共に、ヒトパピローマウイルス (HPV) DNAテストが広く使用されている。HPVテストは、良い感度であるが、その特異性は低い。本研究において、著者らは、HPV mRNAを検出するGen-Probe APTIMA HPV Assayを使用して評価を行い、HPV DNAテストとの比較を行った。

材料と方法

410人の女性から回収した液体子宮頸管Papサンプルについて、APTIMAテスト、Qiagen Hybrid Capture 2 HPV DNA (HC2) Test、および、AMPLICOR HPV Testを用いて、評価を行った。

結果

ハイリスクHPVの検出に対する感度および特異性は、APTIMA testが、それぞれ85.6% および99.2%、HC2 testが、それぞれ94.1%および98.4%、AMPLICOR test が、それぞれ90.2% および95.7% であった。子宮頸管病変の重症度は進行するため、前記3種類のテストの陽性率は、同様の増加を示した。扁平上皮病変 (SIL) の検出に関する臨床での感度および特異性は、APTIMA testが、それぞれ91.2% および84.2%であり、HC2 testが、それぞれ94.5% および80.4%であり、AMPLICOR testが、それぞれ87.9%および78.2%であった。

結論

APTIMA testは、ハイリスクHPVの検出について高感度であり、且つ、特異的であった。SILのサンプルの場合、APTIMA test は、HC2 testおよびAMPLICOR testよりも、さらに特異的であった。このため、APTIMA testが、患者管理を改善し、かつ、スクリーニングにかかるコストを低減できる可能性を示している。